

I

〔出題のねらい〕

われわれは誰かから自分の長所を、褒めてもらおうと嬉しいものである。その褒め言葉が、お世辞や表面的なものだと大して嬉しくはないが、その褒め言葉が具体的であり、心からの評価である場合は、それがわれわれに大きな勇気を与え、われわれの自信と自己肯定感を高め、われわれの人生観や生き方そのものにも、良い影響を与えることになる。本文の内容は、誰かに心から長所を褒められて認められることで、その人間の才能が開花し、可能性を広げることになった、いくつかの事例を紹介しながら、褒めることの大切さとその大きな効果を述べているものである。

問1は、本文の英語の読解力を問うもので、そのうえで、(1)は、孤独と不遇の中、他者に褒めてもらい認めてもらったことで、その人物の人生が大きく変わったことを、19世紀のイギリスの作家 Charles Dickens の場合を通して問うものである。(2)は、褒めることの効果を、アメリカの一般人 John Ringelspaugh 氏の子育ての経験を通して問うものである。

問2 (1)は、本文全体の主旨を理解しているかを問うものである。(2)は本文の内容を踏まえたうえで、自分の考えを自らの体験をまじえて書ける文章構成力、表現力をみた。

〔講評〕

問1

(1) この問題では、ディケンズが①「自作が何度も不採用になった」が②「彼の作品を褒め出版の手助けをする編集者が現れた」ことをきっかけとして③「人気の作家となった」という3点を捉えられていることを問うものであるが、Story after story was refused の部分を見落とし、一人の編集者が褒めた点のみを解答する答案も散見された。

(2) 全体として子どもたちの行動の変化については、概ねよく書けていた。さらに改善するためには、両親が子どもたちへの教育の仕方をどのように変えていったかという「原因」の部分と、それに伴い子どもたちのそれまでの行動がどのように変化していったかという「結果」の部分それぞれについて、指定された字数内で具体的に記述すると、自分の理解度をより明確に伝えられる。自分が理解できた部分をつなぎ合わせた局所的な読み方をするのではなく、Ringelspaugh 一家の教育状況に関する記述内容を全体として捉え、自分の言葉に置き換えて表現するような姿勢が望まれる。

問2

(1) 褒めることの重要性が書かれた、概ねのポイントをおさえている解答が多々あった

が、「心からの具体的な褒め言葉」という部分が欠けている答案も散見された。

(2) ●誤字・脱字は少なかった。

●本文の内容を踏まえたうえで、自己の経験を適切に関連付け、論理的にまとめられた答案も見られた。一方で、設問の意図を理解していないと考えられる答案も、少数であるが、見られた。

●生き方の変革を経験した友人のことを記述するのではなく、あくまでも「あなた自身にとっての」変革を記述するのが望ましい。

●普段は厳しい指導者が本番前では褒めてくれたので本番でのミスを軽減できたというような、褒められたことによる一時的な効果を記述したものは、本文の趣旨とのずれが生じてしまったため、説得力に欠けるものもあった。

●他者による高い評価を受ける前後に焦点を当てることで、自分の生き方がどのように変化・変革したのを記述できると良い。

II

[出題のねらい]

受験生が、日本の大学に入学したあと、その大学に入学してきた海外からの留学生が順調に大学生活を送れることを手助けする、「チューター」になったという想定で、その留学生たちのために、チューターの自分はどんなことがしてあげられるかを書かせるライティング問題である。これは、英語のライティング力を問うとともに、誰かのために自分は何ができるかという奉仕の心についてと、そのために必要な知識は何か、などを受験生に考えさせる教育的な視点に立った設問である。

[講評]

Two assessment criteria were applied to this question:

- a. Contents
- b. Conventions

Contents:

The question demands that the applicants write on three aspects:

- i. **Description of the qualities of a student-tutor** (such as ability to speak in English; have excellent interpersonal skills; be outgoing; have awareness of cultural differences between Japan and other countries, etc.)
- ii. **Specific examples of how they will help international students to live happily in Japan** (such as introducing Japanese culture and food; showing international students places to buy food and groceries; showing them the most convenient ways to get to the university; introducing them to students club activities, etc.)

- iii. **Specific examples of how they will help international students to study successfully in Japan** (such as explaining the university attendance policies; helping them to choose their courses adequately; taking them to the university library and showing them how to access online materials; advising them to save their documents in multiple places; explaining the importance of course syllabi etc.)

Conventions:

- i. Adequate spelling and punctuation.
- ii. Adequate grammar.
- iii. Adequate formatting, including indentation, paragraphing, etc.
- iv. Adequate transitions at the beginning of each aspect of their composition.
- v. Adequate conclusion.

Observations during grading and advice for future writing examination:

- i. Most of the applicants performed well on this part of the examination.
- ii. It is important that applicants provide sufficient time for the writing part because writing takes time.
- iii. Applicants need to provide specific examples when required.
- iv. Applicants need to check their spellings and punctuations. There were some spelling errors.
- v. Applicants should ensure that they write up to the number of words required (in this case between 80 to 100 words). A few applicants did not write up to 80 words.
- vi. Applicants should be aware that a paragraph is not a list of unrelated sentences.